



沖縄県立南部医療センター・  
こども医療センター

# 専攻医募集

Okinawa Prefectural Nanbu Medical Center & Children's Medical Center

# こどもからおとなまで 「大切な命を守り、県民に貢献する」病院

沖縄県立南部医療センター・こども医療センターは、全国でも数少ない、こども病院を併設した、大人とこどものための総合医療センターとして全く新しい機能や役割を持った基幹病院として開院しました。

診療の特徴として、胎児期から成人までを対象とし、あらゆる疾患に対応する事が可能な高度で多機能な病院です。



# Contents

基本方針 .....	4
「基幹・他基幹」連携一覧表 .....	5
<b>【診療科・部門紹介】</b>	
小児科 .....	6
内科 .....	8
総合診療科 .....	10
救急科 .....	12
外科 .....	14
形成外科 .....	16
専門研修プログラム診療科・認定医療機関 .....	18
指定医療機関・学会認定施設	
当院の概要 .....	19



## 病床数は444床（小児病床124床）で、急性期病院として位置付けられています。

### ●基本方針

1. 県民と協働し、共感・共存できる公的医療を実践します。
2. 県民生活を守る救急医療を 365 日 24 時間提供します。
3. 病んでいる子ども達の可能性を最大限に生かせるよう努力します。
4. 教育・研修病院として良き医療人を育成します。
5. 病状や治療方針について、平易な言葉で十分に説明し、納得がいく同意を得るよう努力します。
6. 病院ボランティアの受け入れを進んで行います。
7. 県民が誇れる、県民の病院として地域交流から国際交流まで進めていきます。
8. 沖縄県の基幹病院として職場環境に配慮し、健全経営に努めます。



## 診療の特徴として、子どもから大人までを継続して医療サービスを受ける事ができます。

### ●南部医療圏における救命救急医療

県都那覇市を含む南部医療圏（人口約74万人）はもちろん、沖縄県（一部鹿児島県）の離島からの症例についても救命救急センターで24時間365日、初期から3次のすべての救急患者（小児から高齢者まで・特殊疾患も含めて）に対応し治療に当たります。

### ●小児の専門診療（こども病院機能）

沖縄県全域と近接する県外の小児を対象とした、小児医療の最終病院として3次医療機能を有します。総合周産期母子医療センター、母体・胎児集中治療室（MFICU6床）、新生児集中治療室（42床）、および小児集中治療室（8床）を有し、先天性心疾患、血液疾患、腎疾患、神経疾患、小児外科・小児形成外科・小児整形外科疾患など、専門医療を行う完結型のこども病院として、全県から紹介、搬送される重症児の管理を行います。また在宅医療や小児の成育・支援を含めた小児の総合診療を提供します。

### ●高度多機能病院

成人部門には、多岐にわたる専門性の高い疾患が集まります。そのゲートキーパーとしての総合診療機能を救命救急科と総合内科が担っています。また当院は、急性冠症候群、脳血管障害、多発外傷など内因系、外因系疾患に対応する集中治療室（ICU15床）を有し、高度医療を行います。また地域支援病院として、紹介、逆紹介を通じ、急性期・慢性期の病診連携を行います。

### ●精神身体合併症医療

総合病院の中に、県内では最初の合併症専用の精神科病棟（5床）を持ち、身体合併症のある精神疾患を内科、外科や他科と連携し治療を行います。

### ●離島、へき地医療支援

当院は8カ所の附属診療所のへき地医療拠点病院として、医療支援を行い、離島の人々の健康をサポートします。



幅広い職種に多くの職員が勤務する当院では、職員の子育てと仕事の両立を支援するため、院内保育所「みなみのご保育園」を併設しております。（病児保育もあり）

# 「基幹・他基幹」連携一覧表

診療科	連携病院名	当院プログラムに連携	相互連携	他基幹プログラムに連携
内科	沖縄県立中部病院		連携	
	琉球大学病院		連携	
	白河厚生総合病院		連携	
	県立広島病院		連携	
	沖縄県立宮古病院	連携		
	沖縄県立八重山病院	連携		
	沖縄県立北部病院	連携		
	国立国際医療研究センター			連携
	ハートライフ病院			連携

診療科	連携病院名	当院プログラムに連携	相互連携	他基幹プログラムに連携
小児科	沖縄県立中部病院		連携	
	千葉市立海浜病院		連携	
	国立成育医療研究センター(関連施設)	関連		関連
	沖縄中部療育医療センター(関連施設)	関連		
	中部徳洲会病院(関連施設)	関連		
	沖縄県立北部病院(関連施設)	関連		
	沖縄県立宮古病院(関連施設)	関連		
	沖縄県立八重山病院	連携		
	沖縄協同病院	連携		
	静岡県立こども病院	連携		
	防衛医科大学校病院			連携

診療科	連携病院名	当院プログラムに連携	相互連携	他基幹プログラムに連携
総合診療科	沖縄県立中部病院		連携	
	沖縄県立宮古病院		連携	
	沖縄県立八重山病院		連携	
	沖縄県立病院附属診療所(16カ所)	連携		
	CFMD家庭医療学レジデンシー・東京 県立広島病院			連携

診療科	連携病院名	当院プログラムに連携	相互連携	他基幹プログラムに連携
救急科	浦添総合病院		連携	
	琉球大学病院		連携	
	沖縄県立中部病院		連携	
	高知医療センター		連携	
	米盛病院		連携	
	順天堂大学医学部附属浦安病院		連携	
	静岡県立総合病院		連携	
	国際医療福祉大学成田病院		連携	
	洛和会音羽病院		連携	
	国立病院機構埼玉病院		連携	
	沖縄協同病院	連携		
	中頭病院	連携		
	ハートライフ病院	連携		
	沖縄赤十字病院	連携		
	沖縄県立北部病院	連携		
	沖縄県立宮古病院	連携		
	沖縄県立八重山病院	連携		
	石巻赤十字病院	連携		
	福岡大学病院			連携
	横浜市立市民病院			連携
東京医科大学八王子医療センター			連携	

診療科	連携病院名	当院プログラムに連携	相互連携	他基幹プログラムに連携
外科	沖縄県立中部病院		連携	
	聖マリア病院		連携	
	聖マリアンナ医科大学病院		連携	
	沖縄県立北部病院	連携		
	沖縄県立八重山病院	連携		
	沖縄県立宮古病院	連携		
	旭川医科大学病院	連携		
	神戸大学外科専門研修プログラム			連携
	沖縄協同病院外科専門研修プログラム			連携

診療科	連携病院名	当院プログラムに連携	相互連携	他基幹プログラムに連携
形成外科	琉大病院		連携	
	名古屋大学病院		連携	
	鳥取大学附属病院		連携	
	九州大学病院		連携	
	富山大学病院		連携	
	形成外科KC	連携		
	九州がんセンター	連携		
	沖縄県立中部病院 ※地域医療研修施設	連携		
	沖縄県立北部病院 ※地域医療研修施設	連携		
	沖縄県立八重山病院 ※地域医療研修施設	連携		
	沖縄県立宮古病院 ※地域医療研修施設	連携		

## 他基幹プログラムと連携している診療科

診療科	連携病院名	プログラム名
産婦人科	沖縄県立中部病院	沖縄県立中部病院産婦人科専門研修プログラム
	琉球大学病院	琉球大学産婦人科研修プログラム
	友愛医療センター	友愛医療センター産婦人科専門研修プログラム
耳鼻咽喉科	琉球大学病院	ちゅらしま沖縄耳鼻咽喉科研修プログラム
皮膚科	琉球大学病院 皮膚外科医を目指すコースを選択した場合に限り1年間研修する。	琉球大学医学部皮膚科研修プログラム
眼科	琉球大学病院	琉球大学眼科専門研修プログラム
整形外科	琉球大学病院	琉球大学整形外科専門研修プログラム
脳神経外科	九州大学大学院医学研究院脳神経外科	脳神経外科専門研修九州大学医学研究院 脳神経外科プログラム
	琉球大学病院【関連施設】	脳神経外科専門研修 琉球大学医学部プログラム
	順天堂大学医学部附属順天堂医院【関連施設】	脳神経外科専門研修順天堂大学医学部プログラム
	岐阜大学医学部附属病院【関連施設】	脳神経外科専門研修岐阜大学医学部プログラム
	長崎大学病院【関連施設】 帝京大学病院【関連施設】	
精神科	沖縄県立精和病院	沖縄県立病院群 精神科専門医研修プログラム「うりずん」
	琉球病院	国立病院機構 琉球病院 精神科専門研修プログラム
	平安病院	精神科専門医研修プログラム「ゆい」
麻酔科	琉球大学病院	琉球大学麻酔科専門研修プログラム
	大阪赤十字病院	大阪赤十字病院麻酔科専門研修プログラム
	神戸市立医療センター中央市民病院	神戸市立医療センター中央市民病院麻酔科専門研修プログラム
放射線科	琉球大学病院	おきなわ放射線科専門研修プログラム
病理診断科	琉球大学病院	沖縄病理専門研修プログラム

# 小児科

[Pediatrics]



Message

こども医療センター部門は全国でも珍しい総合病院併設型のこどもの総合医療施設です。全国的に少子化が進む中で沖縄は、合計特殊出生率が1.54と全国平均の1.3倍、15歳未満の小児人口割合も日本一と、こどもが多い地域の一つです。

当院は総合周産期母子医療センターや県内唯一のPICUを持ち、ほぼすべての小児内科・外科系疾患の高度専門医療が行える病院となっています。さらに、全県の重症児を受け入れ管理する一方、小児の心身障がい児の在宅ケアの包括的支援や小児の心のケアまでを包括的に行っています。

当院の小児部門では専攻医含めて48名が常勤するほか小児心臓血管外科、小児外科、小児整形外科、小児泌尿器科などの外科部門も充実しています。特に当院は全国で10番目の小児救命救急センターであり24時間稼働の救急医療を提供しています。年間(2024年度)救急受診数33,530人中、15歳未満の小児が約6割です。

当院の研修医は救急室で多くの小児救急患者の初療を自ら第一線で担当します。上気道炎や気管支喘息、熱性けいれんなどのcommonな疾患に対するスタンダードなアプローチ、家族への対応などを学べる一方、また稀な疾患に対する治療や、虐待、在宅医療を要するこどもの急変などにも関わります。

先天性心疾患、小児神経、小児血液腫瘍、小児腎疾患、小児内分泌、小児感染症など専門的な治療を要する疾患も、専科でどのようにフォローされていくかなど、連続的に学ぶことも可能です。

さらに当院は、新専門医制度に対応した小児科専門研修プログラムの基幹病院であり、2年間基幹病院で研修後3年目は離島で独り立ちして診療できる力をつけることを目指します。学会発表や論文指導もしっかり行っています。小児科専門医をめざす方ばかりでなく、家庭医をめざす方、離島診療をめざす方、救急医のなかで小児科診療に力をつけたい方などのニーズにも十分対応できると自負しています。

明るい光、青く高い空、美しい珊瑚礁の島沖縄と一緒に小児医療を学びましょう！



プログラム責任者

大城 達男

## 自然豊かな沖縄で小児科医を目指してみませんか

山城 茉裕子

Mayuko Yamashiro

私が初期研修医として関わる中で、「離島・僻地で小児科医として独り立ちする」という具体的な到達目標に向かって、懸命に努力する専攻医の先輩たちと全力で指導して下さる上級医の先生方の姿が印象的でした。当院は、沖縄県唯一のこども病院として「Common Disease」から「希少疾患」まで県内各地より多くの症例が集まります。小児総合診療科、NICU、PICUと専科を満遍なくローテートする研修で、頻度の高い疾患から専門性の高い疾患まで経験することができます。また救急外来での急性期対応から、重症心身障害児の慢性期在宅医療まで将来小児科医として遭遇するであろう、様々な時間軸の医療現場を経験できます。EBMに基づいたカンファレンス、専攻医に焦点を当てた勉強会、離島・僻地での診療を見越した手技習得のチャンス多さ、どれをとっても小児科医としての土台作り最適な環境だと実感しています。研修は大変なこともあります、共に研鑽を積む小児科専攻医の仲間たちと一緒に前に進んでいることが何よりも心強いです。南国沖縄らしくとても明るく活気のある病院です。ぜひ一度見学に来てください。



## プログラム概要

当院の研修目標のうち、最も大きなものとして「離島で小児科医として独り立ちできる」があります。

その目標を達成するために、研修3年間のうち最初の2年間は当院で各系統疾患の初期診断、マネジメントについて学んでいただき、3年目に離島、あるいは沖縄本島の北部などで実際に診療していただく、というプログラムになっています。

当院には小児の各専門科があるので、専攻医は各科を2-3ヶ月単位でローテーションしていただきます。離島で出会う頻度の高い疾

患を念頭に、小児総合診療科と新生児科は1年目と2年目にそれぞれ3ヶ月ローテーションするプログラムです。

その他専門性の高い領域として神経・精神、内分泌、腎臓、循環器、集中治療、血液腫瘍、感染症について、各科で学べるよう1-2ヶ月を単位にローテーションしていただく予定です。

また、当院で専門医のいないアレルギーなどの疾患については選択制とし、連携病院で学んでいただくプログラムになっています。

## 小児科／カリキュラム(例)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
専門研修 1年目	沖縄県立南部医療センター・こども医療センター					※1	沖縄県立南部医療センター・こども医療センター					
	総合診療(2カ月)		感染症(1ヶ月)	血液(2ヶ月)		外来研修	腎臓・神経(1ヶ月)	NICU(3ヶ月)			総合診療(1ヶ月)	内分泌(1ヶ月)
専門研修 2年目	沖縄県立南部医療センター・こども医療センター			※1		沖縄県立南部医療センター・こども医療センター						
	NICU(3ヶ月)			外来研修	院外研修	循環器(2ヶ月)		総合診療(2ヶ月)	腎臓・神経(1ヶ月)	PICU(2ヶ月)		
専門研修 3年目	沖縄県立宮古病院・沖縄県立北部病院・沖縄県立八重山病院より選択											
	地域総合小児医療(1年間)											

※選択院外研修→県内外の施設またはハワイ大学研修(応募制)

## 小児科プログラム

### 【各診療科医師】

小児総合診療科7人小児循環器内科6人、新生児内科9人、小児腎臓内科2人、小児血液・腫瘍内科4人、小児神経内科2人(児童精神兼任)、小児感染症内科2人、小児内分泌・代謝内科2人、小児集中治療科5人

### 【学会発表/論文作成指導】

日本小児科学会沖縄地方会 年2回、沖縄県医師会学術集会 年2回、には積極的に演題提出を奨励する。また全国学会、国際学会にも出席、発表の機会を設ける。また学会発表した演題をもとに担当の指導医が論文作成のサポートを行う。当院医学雑誌、沖縄県医沖縄県医師会学会雑誌への原著論文投稿は査読があり、症例報告を中心に論文掲載も比較的スムーズである。指導医は専門医取得のための論文作成準備を入念にサポートできる。

### 【当直/日当直の月回数】

当直・日当直回数4-6回

## 連携施設一覧表

- ・ 沖縄県立中部病院
- ・ 静岡県立こども病院
- ・ 千葉市立海兵病院
- ・ 沖縄協同病院
- ・ 沖縄県立八重山病院

## 関連病院一覧表

- ・ 沖縄県立北部病院
- ・ 沖縄県立宮古病院
- ・ 沖縄中部療育医療センター
- ・ 国立成育医療研究センター
- ・ 中部徳洲会病院



# 内科

[Internal medicine]



Message

## ●伝統の継承と革新：ハイブリッドな内科研修で、揺るぎない「個」の力を

圧倒的な症例数に裏打ちされた「断らない救急」と、患者を全人的に診る崇高なプロフェッショナルリズムを持つ県立中部病院で教育を受けてきた指導医が数多く在籍する当センターで、その血脈を受け継ぎ、若き志を強力にバックアップしています。

## ●米国式研修と現代日本の制度、その「最適解」がここにある

私たちのプログラムの特色は、中部病院伝統の「米国式研修システム」に、エビデンスに基づいた合理的かつ効率的な「本邦の研修制度」を融合させた点にあります。論理的思考を磨くカンファレンスと、システム化された教育体制を組み合わせることで、何処でも通用する臨床能力を身につけることが可能です。

## ●感染症・総診の強力なバックアップで「オールマイティー」に

当センターの最大の武器は、内科各診療科は勿論のこと、グローバルな感染症内科ならびに地域医療での経験を活かした総合診療科が極めて高いレベルで揃っていることです。地域診療から高度専門医療までを網羅するなかで、内科医としての土台となる「診断推論」と「全身管理」、そして現代医療のキーとなる「適切な感染症管理」を徹底的に叩き込みます。それによって、専門の枠にとられないオールマイティーな対応力が身に付き、複雑な合併症を持つ症例や診断困難な病態にも自信を持って立ち向かえる実力がつきます。

## ●現場で通用する実力を、その手に

当センターで積む3年間の経験は、単なる知識の習得ではなく、意思決定の矢面に立ち、自ら道筋を立てる「完結力」を養う場です。当プログラムを修了した時、その実力を思い存分発揮できるようになっているはずですよ。

当センターでの研修で、次代の内科を担う精鋭として共に成長できる日を楽しみにしています。



プログラム責任者

林 成峰

## 専門性を持ち、全身を診る 内科医を目指して

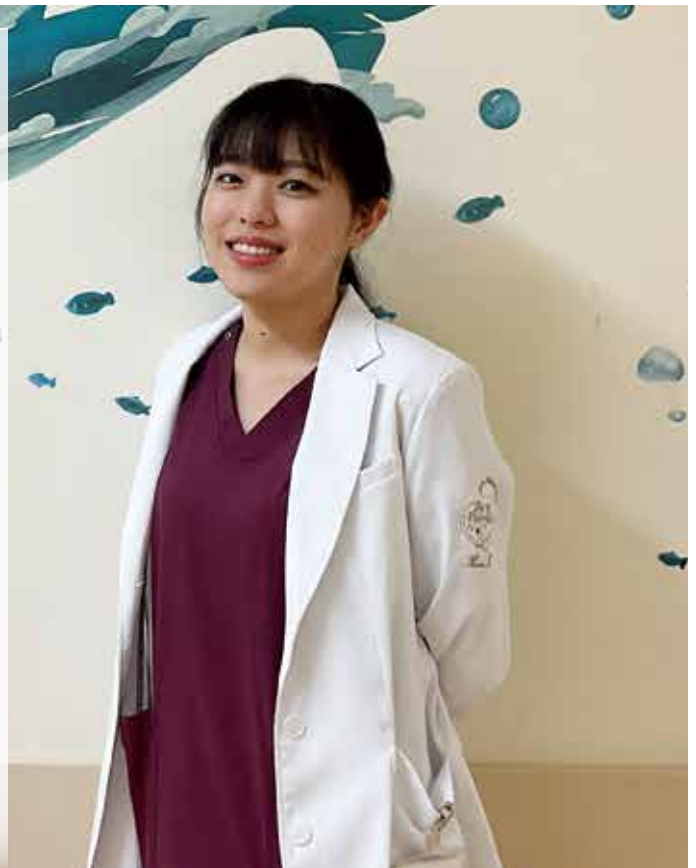
前田 妃奈

Hina Maeda

はいたい！私は研修医修了までに進路を決めきれず、学生の頃からの目標である「専門分野を持ちつつ全身を診ることのできる医師」を目指して内科での研修を始めました。

当院のプログラムは専門内科が揃っており、特定の診療科だけでなく各科のローテーションを通じて包括的に内科管理を学び実践できることが魅力です。軽症から重症、rare caseまで様々な症例を経験することができ、分野を問わず全身を診てマネジメントする力が身につきます。各科の垣根なくフラットに相談でき、いつでも指導が受けられる環境でのびのびと自分の力で診療することができます。毎日めまぐるしく悔しい思いをすることも少なくないですが、頼れる同期や後輩、温かくまっすぐに向き合ってください先生方に支えられて日々を過ごしています。

内科に興味のある方、沖縄で研修したい方などなど、当院と一緒に研修を始めてみませんか？いつでも見学をお待ちしています。



## プログラム概要

当院は平成18年4月に開院した沖縄県の基幹病院で、こども病院機能を併設した総合病院です。那覇南部地区約70万人の地域に立地し、救命救急センターを持ちながらも、1次から3次まで幅広く救急疾患に対応し、さらに小児救命救急センター、総合周産期母子医療センターと共に、沖縄県全域の小児、周産期医療を支えています。また、県立附属の16診療所中、8診療所は当院の附属診療所であり、離島中核病院(宮古、八重山、北部)と同様に診療連携と支援を行っています。さらに、身体合併症のある精神科患者を受け入れる精神科棟も備え、歯科口腔外科では専門性の高い歯科治療を行うなど多機能病院で、各科垣根なくコンサルトできる体制であり、幅広い知識を身につけ、全人的医療が可能になります。

さて、内科専攻医には、上記の機能を有する当院での研修は有

意義であると考えます。研修期間の3年間で内科専門医を獲得することを目指します。具体的に言えば、A案の場合、前半1年間は、呼吸、循環、消化器、神経、血液、総合内科、腎臓を2ヶ月ごとにローテーション、さらに週1回は沖縄県立中部病院の感染症専門医であるコンサルタントより指導を受けることもできます。

当院内科は特色ある専門医療を提供できるよう各専門内科が設けられていますが、中でも内科疾患への対応は、包括的な観点をもって対応する必要があり、特に総合内科は、多種の症候と疾病に対し、より広い観点で病態を見渡せる診療科として、内科領域のプライマリケアの中心的役割を担っております。

実際には、右記の3案の中から、スタッフと相談してローテーションを決めます。連携病院は、離島中核病院である宮古病院、八重山病院、そして基幹病院である琉球大学病院(短期研修)です。

## 内科／カリキュラム(例)

A案	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
専門研修1年目	腎臓内科		循環器内科		呼吸器内科		消化器内科		血液・腫瘍内科・リウマチ膠原病科		神経内科	
専門研修2年目	※1 連携病院研修											
専門研修3年目	希望subspecialtyをローテーションする											
B案	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
専門研修1年目	腎臓内科			循環器内科			呼吸器内科			消化器内科		
専門研修2年目	血液・腫瘍内科・リウマチ膠原病科			神経内科			※1 連携病院研修					
専門研修3年目	※1 連携病院研修						希望subspecialtyをローテーションする					
C案	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
専門研修1年目	腎臓内科			循環器内科			呼吸器内科			消化器内科		
専門研修2年目	血液・腫瘍内科・リウマチ膠原病科			神経内科			希望科研修(※1 連携病院研修含む)					
専門研修3年目	希望科研修(※1 連携病院研修含む)(3年間で研修終了)											
専門研修4年目	連携施設(中部病院・北部病院・宮古病院・八重山病院のいずれか)											

## 連携施設一覧表(※2)

- ・ 沖縄県立中部病院
- ・ 沖縄県立八重山病院
- ・ 県立広島病院
- ・ 沖縄県立北部病院
- ・ 琉球大学病院
- ・ 国立国際医療研究センター
- ・ 沖縄県立宮古病院
- ・ 白河厚生総合病院
- ・ ハートライフ病院



### 内科系診療科

総合内科  
循環器科  
呼吸器科  
消化器科  
神経内科(脳卒中センター)  
腎リウマチ科  
血液腫瘍内科  
感染症科

# 総合診療科

[General department]



Message

私たち沖縄県は離島県のため16の県立病院附属離島診療所(医師1名)があります。当プログラムでは基本的にはこれら離島の診療に責任をもって携われる総合診療医/家庭医療医を育成することを柱としています。そのため、確かな医療倫理のもと患者中心・家族志向の医療、包括的で継続的な医療、地域のニーズに則した医療および保健・福祉へ協力できる医師を育成していきます。また、当プログラムのスタッフ全員が離島医療の経験者であり、現在は異なるサブスペシャリティを持って診療しているため、良き先輩として専攻医を応援してくれます。

私たちは熱い思いを持って、沖縄の離島診療および急性期総合病院研修を通じて総合診療医を育てていく事を目標としています。それに負けない熱い思いを持っている研修医のみなさん、また、何か物足りなさを感じている研修医のみなさん、楽しく研修し、働いてみませんか？



総合診療専門  
研修プログラム責任者  
外間 亮

Message

## 「沖縄(ここ)での経験が、今後の人生に彩りを加える」

はじめまして、専攻医として新しい一歩を踏み出す医師の皆さまへ。  
当院のパンフレットをご覧ください、誠にありがとうございます。

1. 離島医療の舞台で活躍:当院総合診療科では、沖縄県の離島診療所で活躍できる医師を育成しています。
2. 専門医への道:初期研修で培った経験と知識を活かし、臨床推論やPCCM(患者中心の医療)、BPSモデル(Bio-Psycho-Socialモデル)などの理解と実践を目指します。
3. 多彩なキャリア形成:2年間の領域別研修後、離島診療所で「総合診療医」として活躍できます。また、院内の総合診療専門研修プログラムと連動しているため、総合診療専門医と新・家庭医療専門医の取得が可能です。
4. 経験豊富なスタッフ:当科のスタッフは全員が離島医療の経験を持ち、異なるサブスペシャリティを持っています。将来のキャリア形成に関する相談にも積極的に応じます。

この素晴らしい環境で、新米家庭医として人生に彩りを加えてみませんか?興味をお持ちの方は、ぜひお問い合わせください。



家庭医療専門  
研修プログラム責任者  
神山 佳之

## 知識を共有し高めあえる環境

### 宮島 一実

Kazumi Miyajima

私は以前より地域医療に貢献することを志しており、初期研修終了後は救急医の道へ進みました。救急科専門医取得後に、改めて患者さん一人一人に寄り添うことのできるプライマリケアを一から学びたいと考えていた最中、当院のプログラムを知りました。そこで自分の目標にしたいと思える先生と出会ったことで、現在「ジェネラリストのスペシャリスト」を目指し精進しております。

当院の研修の特徴は、2年間で内科、小児科、整形外科、救急科の研修を行い、臓器および年代を横断的に診療できることにあります。ERから入院管理、最終的には一般外来まで繋げることを自分の手で完結させることができることも魅力の一つと考えます。

3年目に離島診療所での研修を行うことを意識しながら過ごす2年間となるため、自然と密度の濃い研修を行うことができます。

ジェネラリストに興味がある方、自然豊かな沖縄に興味がある方、ぜひ一度見学に来てください。



# 理念

## ・総合診療専門研修プログラム

プライマリ・ケアの研修を通して確かな医療倫理のもと患者中心・家族志向の医療、包括的で継続的な医療、地域のニーズに則した医療および保健・福祉へ協力できる全人的な「総合診療医」「家庭医」の育成が目的です。沖縄県には16の県立病院附属離島診療所があり、基本的にはこれら離島の診療に責任をもって携われる医師を育成するためのプログラムです。

## ・家庭医療専門研修プログラム「やーにんじゅ」

本研修プログラムは「自分の家族や大切な方の身近な相談相手になれるよう、安全で連続性のある医療を提供する」といった理念を持っているため、沖縄の方言で「家族」を意味する「やーにんじゅ」をプログラム名に付けました。その理念の下、総合病院や診療所といったフィールドを問わず、幅広い職場環境において、臓器別ではない患者それぞれの背景を把握し理解したうえで診療する力を身に付け、実践できることを目標にしています。

# プログラム概要

## 1. 地域における役割

地域を支える診療所や病院では、領域別専門医をはじめ、医療・介護・福祉など多職種と連携し、各分野の調整役としてリーダーシップを発揮します。地域のニーズに応じて、在宅ケア、緩和ケア、高齢者ケアなど、多様な医療サービスを包括的に提供していきます。

## 2. 総合診療部門の機能

総合診療部門では、臓器別に限定しない病棟診療を行い、高齢者入院患者や心理・社会的課題を抱える患者に対して包括的なケアを提供します。がん・非がんを問わず緩和ケアに取り組むとともに、内科系救急疾患にも積極的に対応します。

## 3. 研修内容

本プログラムでは、3年間の系統的研修を通じて、患者中心・家族志向の医療および包括的で継続的な医療を提供できる能力の習得を目指します。研修は以下の必須診療科と選択科で構成されます。

1. 総合診療研修Ⅰ(離島・へき地の診療所における外来・在宅・保健を中心)
2. 総合診療研修Ⅱ(病棟診療および内科系救急診療を中心)
3. 内科(6カ月)
4. 小児科(3カ月)
5. 救急科(1カ月)

加えて、整形外科(3カ月)および選択科で研修を行います。

## 4. 総合診療専門研修の流れ

総合診療専門研修は、卒後3年目からの後期研修3年間で構成されます。

### (1) 後期1年次

領域別研修を中心に、内科(6カ月)、小児科(3カ月)、整形外科(2カ月)、選択科(1カ月)で研修を行います。急性期疾患の基本的治療および検査を独立して実施できることを目標とし、必要に応じて速やかに専門科へコンサルトできる能力を養います。また、慢性疾患のフォローアップにも対応できる力を培います。

### (2) 後期2・3年次

次の2コースを研修します。

#### ア. 病院研修コース(総合診療研修Ⅱ)

総合病院の内科系病棟においては、総合診療科に所属し、臓器別に限定されない症候・疾患や、患者の心理・社会的問題に対する入院ケアを中心に行います。また、総合診療科の外来および入院診療を実践する総合診療専門研修Ⅱを6カ月間行い、そのうち3カ月は内科研修と並行して研修します。さらに、臓器別内科研修を3カ月間行い、残りの3カ月はER型救急診療およびICUケアを組み合わせたハイブリッド型救急研修を実施します。

#### イ. 離島診療所研修コース(総合診療研修Ⅰ)

これまでに培った臨床技能を活かし、離島診療所で外来診療や一次救急、訪問診療、地域保健指導、産業医・学校医業務などに幅広く従事します。一人医師体制のもとで診療研修を行います。週1回のオンライン症例検討会で問題点の共有・解決を図ります。3カ月に1回は現地での直接指導を実施し、緊急時には救急センターと24時間連絡体制を確保します。

# 総合診療科／カリキュラム(例)

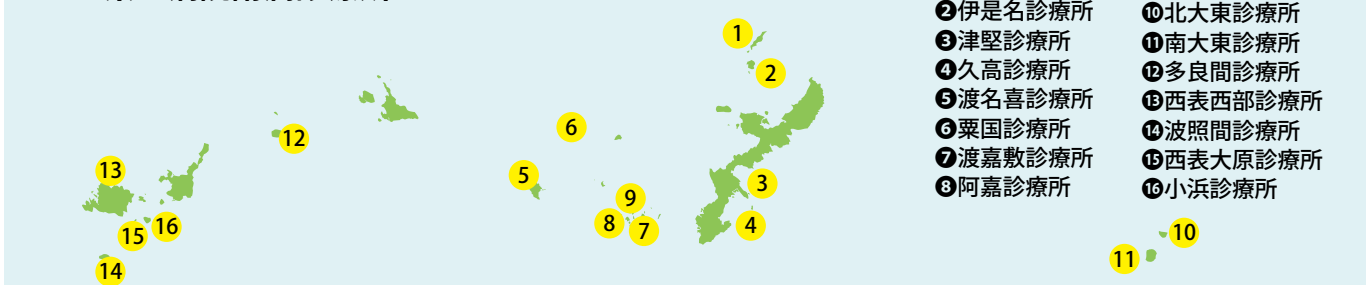
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
<b>総合診療専門研修プログラム[3年]</b>												
専門研修1年目	総合診療科2か月		循環器内科2か月		神経内科2か月		小児総合診療科3か月			整形外科2か月		産科1か月
専門研修2年目	専門内科3か月(選択)			救急・集中治療科3か月			総合診療科3か月(家庭医療専門研修Ⅱ)			院外研修3か月(家庭医療専門研修Ⅱ)		
専門研修3年目	家庭医療専門研修Ⅰ(離島診療所)											
<b>家庭医療専門研修プログラム[4年]</b>												
専門研修4年目	家庭医療専門研修Ⅰ(離島診療所)											

※家庭医療専門研修プログラムでは総合診療プログラムに加えて家庭医療専門研修Ⅰを1年間経験する必要があります。

# 連携施設一覧表

- ・ 沖縄県立中部病院
- ・ 沖縄県立宮古病院
- ・ 沖縄県立八重山病院
- ・ 沖縄県立病院附属診療所 (16カ所)
- ・ 県立広島病院
- ・ CFMD 家庭医療学レジデンシー・東京

## 16の県立病院附属診療所



- ① 伊平屋診療所
- ⑨ 座間味診療所
- ② 伊是名診療所
- ⑩ 北大東診療所
- ③ 津堅診療所
- ⑪ 南大東診療所
- ④ 久高診療所
- ⑫ 多良間診療所
- ⑤ 渡名喜診療所
- ⑬ 西表西部診療所
- ⑥ 粟国診療所
- ⑭ 波照間診療所
- ⑦ 渡嘉敷診療所
- ⑮ 西表大原診療所
- ⑧ 阿嘉診療所
- ⑯ 小浜診療所

# 救急科

[Emergency department]



Message

沖縄県南部の高台に位置する当救命救急センターは、あらゆる年齢層の軽症症例から重症症例まで幅広く受け入れる日本最南端の3次医療施設です。Walkinから救急車搬送、ドクターヘリ、離島搬送など搬送形態も幅広く対応しています。あらゆる救急症例が経験できると思います。

沖縄はER型救急診療で有名ですが、当院では病棟・ICUでの診療までを経験することで、初期診療～入院診療～転院・転床までの診療を対応することで集中治療や他の診療科などのsub-specialityの検討も考慮した診療体制としています。

当院の特徴としてこども病院併設型の急性期病院であるため、小児科医師が多く小児受診者が他の3次医療機関より圧倒的に多い特徴があります。総合母子周産期医療センターとしての機能もあるため母体救急搬送の受け入れもあり、あらゆる年齢層の受け入れが日々行われている珍しい救命救急センターです。ER診療では基本的に全勤務帯を通して、一部小児科・産科患者を除いてほぼすべての初期対応を行っています。

加えて、重症患者の初期診療は当科が中心となって行い、必要に応じて各診療科専門医師へ継続した診療への橋渡しを行っています。特に多発外傷、敗血症性ショックなどの重傷症例や中毒、心肺停止蘇生後などの特殊救急疾患の入院治療は当科が主治医となって担当し、集中治療を行います。必要時には各専門医と連携し治療にあたります。救急科専従中、専攻医はER、ICU、一般病棟、各々を一定期間集中的に研修します。一般病棟での業務も行っており、日々の治療方針策定から、回診、リハビリ指示、退院調整等までをチームの一員として最前線で行ってもらいます。勤務扱いでのBLS、ACLS、JPTEC、JATECなどの救急集中治療に必要な研修コースの受講も積極的に行っています。当施設でのプログラムでは、3年間で日本救急医学会救急科専門医の取得を基本としており、救急専従期間を考慮した研修となるよう各人にあわせて関連する他施設研修などの調整も可能です。初期研修ではERを中心とした、種々の症例の経験を重視し、一定の経験を積んだ専攻医はさらにICU管理を通して全身管理の基盤・各他科専門診療科での決定的治療のプロセスの経験や、病院前救急医療(ドクターカー・ドクターヘリ)なども希望すれば専攻期間内に調整可能な範囲で経験することができます。数多いER症例から一症例を初期診療～入院診療(集中治療を含む)～退院・社会復帰までの診療経験を通して救急医としてmanagementを学ぶことができます。

皆さん、ひとりひとりが人生の主役です。皆さんの医師人生が輝くように、環境を整え、プライベートを含めた人生そのものが充実するように、全力でサポート致します。

是非! 青い空・青い海の南の島で我々と救急診療をやってみませんか。



プログラム責任者

星野 耕大



## 理想の救急医を目指して

長嶺 大和

Yamato Nagamine

当院の救命救急センターは、南部地域の重症救急医療を担い、新生児から高齢者まで幅広い患者に対応しています。小児・新生児症例や外傷、重症呼吸循環不全に対するECMO管理など、多様なケースに触れることができます。常に救急専従スタッフが勤務しており、専攻医はその支援のもとで初期診療から集中治療まで継続的に関わることができます。将来のキャリアに応じてERとICUの比重を調整できる柔軟なプログラムも大きな魅力です。日々の診療を通して、対応力と判断力を磨きながら、自分の理想とする救急医像に近づいていける環境だと感じています。

## プログラム概要

### 【スタッフ/専攻医】

2025年度スタッフ11名/専攻医6名(専攻医1年次2名、専攻医2年次2名、専攻医3年次2名)救急科指導医1名、救急医学会専門医11名、集中治療医学会専門医3名、内科学会総合内科専門医2名、プライマリケア連合学会指導医1名、外科専門医1名(重複あり)

### 【当科の特徴】

- ①当院は3次救命救急センターであり、地域の緊急重症症例を多数受け入れています。当科でER・ICU・一般病棟のすべてを網羅しているため、初期診療から集中治療の急性期管理とその後の管理まで、様々な症例を経験できます。
- ②重症外傷の搬送数は年々増加しています。多くの外傷症例を、初療→IVR→ICU入室といった一連の流れで診療を行い、一般

病棟での管理まで一貫して主担当医として経験することができます。

- ③チーム制で症例を担当しているため、ON-OFFのはっきりした勤務体系です。
- ④小児のファーストタッチも救急医が行うことが多く、小児のCommon diseaseやマイナーエマーゲンシー、重症も含めて、小児救急症例を豊富に経験できます。
- ⑤自衛隊ヘリコプターによる離島搬送の添乗や、海上保安庁による洋上救急に出動することがあります。

### 【救急科専門研修プログラム(他科・他施設選択/ローテーション)】

日本救急医学会救急科専門医を取得することを目指し、救急専従期間を考慮した研修となるよう各人にあわせて調整可能なプログラムを作成しています。

## 救急科/カリキュラム(例)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
後期研修 1年目	南部医療センター 救急診療+集中診療(12ヶ月)											
後期研修 2年目	浦添総合病院 集中治療+ドクターカーOJT(6ヶ月)						※1より選択 地域救急診療(3ヶ月)			地域救急診療(3ヶ月)		
後期研修 3年目	当院及び連携施設(※2)より選択 救急診療+集中診療(6ヶ月)											
							※3 救急診療(+リサーチ)(6ヶ月)					

※1 【社会医療法人敬愛会 中頭病院】 【沖縄赤十字病院】 【社会医療法人かりゆし会 ハートライフ病院】 【沖縄県立北部病院】 【沖縄協同病院】 【沖縄県立宮古病院】 【沖縄県立八重山病院】

※2 2年目と3年目のプログラムは相談の上変更可能です。 ※3 リサーチ選択の場合は、琉球大学院を選択

## 連携施設一覧表(※2)

- ・社会医療法人仁愛会 浦添総合病院
- ・琉球大学病院
- ・沖縄県立中部病院
- ・沖縄赤十字病院
- ・沖縄医療生活協同組合 沖縄協同病院
- ・社会医療法人敬愛会 中頭病院
- ・社会医療法人かりゆし会 ハートライフ病院
- ・沖縄県立北部病院
- ・沖縄県立宮古病院
- ・沖縄県立八重山病院
- ・高知医療センター
- ・米盛病院
- ・石巻赤十字病院
- ・国立病院機構埼玉病院
- ・国際医療福祉大学成田病院
- ・静岡県立総合病院
- ・順天堂大学医学部附属浦安病院
- ・洛和会音羽病院





## Message

初期研修医の皆さま、はじめまして。外科プログラム責任者の村上隆啓です。外科専門研修にあたって当院を選択肢の一つに考えて頂き、大変うれしく思います。当院は沖縄県立病院外科専門研修プログラム（県立病院5施設）の中で中心的役割を担う専門研修基幹施設であるばかりでなく、小児外科・心臓血管外科などサブスペシャリティ領域においても各々の学会認定施設です。研修内容は、外科専門医としての医の倫理を体得するとともに、診断、手術適応判断、手術及び術前後の管理・処置、合併症対策など、一般外科医療に関する標準的かつ包括的な外科医療を習得し、外科医としてのプロフェッショナルの態度を身に着けて頂く事をまずは初期目標としています。さらに南部医療圏（およそ70万人）の中核病院として、一般医療から救急医療（3次救命救急センター）まで幅広い症例経験が可能です。ジェネラル外科医を目指す先生方には、離島病院での診療経験などを含め、満足のいく研修ができるものと確信しております。またサブスペシャリティ領域への進路を考えている専攻医の先生方にとっては、各専科の症例数の多さはもとより、将来を見据えた教育（サブスペシャリティ専門医取得にむけた平行研修、学位・大学院進学、論文作成、海外留学の準備など）にも重点をおいており、これは当院の大きな特徴の一つと自負しています。これから専攻医となる皆さま、沖縄の地で厳しくも楽しくやりがいのある三年間の充実した外科後期研修を、是非当院で受けてみませんか。各指導医は「当院でしか提供できない研修内容の充実」「沖縄から世界レベルの外科医の育成」をスローガンとして、日々試行錯誤しながら頑張っています。



プログラム責任者

村上 隆啓

## 重症外傷からCommon diseaseまで

## 栗山 悠

Yu Kuriyama

私は琉球大学を卒業し、埼玉県での初期研修を経て、現在は当院外科プログラムで研修しています。当院外科の特徴は、指導医が「General Surgeon（総合外科医）」であることを軸に、腹部外科から胸部外科、悪性腫瘍から救急・外傷症例まで、外科が担うほぼすべての領域・疾患を一つの現場で経験できる点です。三次救急病院として超重症例の手術機会も豊富で、私自身、これ以上ないほど充実した研修を送っています。心臓血管外科では、心・大血管・末梢血管疾患の治療に取り組み、Mobil CVS（ドクターカー運用）や「ばいかし大動脈センター」などの取り組みを行っています。さらに当院はこども病院でもあり、小児外科では大学病院相当の希少症例からCommon diseaseまで幅広く経験できます。忙しい日々の合間には、沖縄の陽光を浴び、海を眺めて気分を切り替えられる—そんな環境も大きな魅力です。当院の外科専攻医プログラムは、一人ひとりの志向やキャリア段階に合わせて柔軟に設計できるのが強みです。私たちと一緒に、外科医としての第一歩を踏み出しませんか。



## プログラム概要

外科専門医は初期臨床研修修了後、3年間の専門研修で育成されます。

⇒ 3年間の専門研修期間中、基幹施設または連携施設で最低6カ月以上の研修を行います。

⇒ 本プログラムでは3年間の専門研修終了後に、大学院へ進むことも可能です(琉球大学等と連携)。しかし、原則的に3年間の専門研修期間中は、臨床医としての外科修練に集中することとなります。

沖縄県立病院外科専門研修プログラムの目的と使命は以下の5点です。

- (1) 専攻医が医師として必要な基本的診療能力および外科領域の専門的診療能力を習得すること
- (2) 上記に関する知識・技能・態度と高い倫理性を備えることによ

り患者に信頼され、標準的な医療を提供でき、プロフェッショナルとしての誇りを持ち、患者への責任を果たせる外科専門医となること

(3) 外科専門医の育成を通して国民の健康・福祉に貢献すること

(4) 外科領域全般からサブスペシャリティ領域(消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科)またはそれに準じた外科関連領域(乳腺や内分泌領域)の専門研修を行い、それぞれの領域の専門医取得へと連動すること

(5) 沖縄県の地理的、歴史的背景に基づき、離島および僻地医療を支える外科専門医をこれまでどおり継続的に育成すること

## 外科／カリキュラム(例)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
専門研修 1年目	沖縄県立南部医療センター・こども医療センター(12ヶ月)または連携病院(6-12ヶ月) ※1											
	サブスペシャリティ領域など専門医研修を行うと同時に外科専門医研修											
専門研修 2年目	沖縄県立南部医療センター・こども医療センター(12ヶ月)または連携病院(6-12ヶ月)											
	サブスペシャリティ領域など専門医研修を行うと同時に外科専門医研修											
専門研修 3年目	基本的には離島中核病院 ※2 への外科研修(研修時期に関しては流動的 ※3)											
	外科専門医研修を主とする											

※1 3年間の研修期間中に基幹施設である沖縄県立南部医療センターに6か月以上ローテーションする事が必須。

※3 離島診療は1年間を必修とする。時期は診療体制などにより流動的だが、基本的には専門研修3年目。

### ●4年次以降の進路(到達度に応じる)

- ・ 沖縄県立南部医療センター ・ こども医療センター及び中部病院でのサブスペシャリティ研修 ・ 沖縄県離島中核病院での一般外科修練の継続
- ・ 関連する大学院への国内留学、大学院への進学、他施設への研修、海外留学など

## 連携施設一覧表(※2)

- ・ 沖縄県立中部病院
- ・ 聖マリア病院
- ・ 聖マリアンナ医科大学病院
- ・ 沖縄県立八重山病院
- ・ 沖縄県立宮古病院
- ・ 旭川医科大学病院
- ・ 沖縄県立北部病院

### 取得できるサブスペシャリティ

消化器  
外科

心臓  
血管  
外科

呼吸器  
外科

小児  
外科



# 形成外科

[Plastic surgery]



Message

いきなりですが、「形成外科はマスターするのが難しい科」です。

形成外科は体表面全体を治療対象とする「カタチとキズの専門科」であり、習得への道のりは創傷外科、再建外科、先天異常、腫瘍外科、美容外科など複数の専門領域からなる山脈に入り込む様なものです。守備範囲は広く、それぞれは深くもあります。おのずと全踏破の道のりは遠くなり、知識、技術を満たす盃はなかなか満ちることがないジレンマをたびたび経験すると思います。

着実に前進するためには、一例一例を大切に、かつグローバルスタンダードを意識した積み重ねが大切です。当プログラムは、離島を抱えた遠隔地である沖縄県の特長として地域完結型医療がベースにあります。一般的な疾患に多く出会うとともに、時に専門性の高い稀な症例を経験することもあります。一般的な疾患であっても、よりパーフェクトな管理、術式は何かを常に自問し、専門性の高い症例に関しては指導医の頭の中を窺ってシャドウイングする習慣が欠かせません。

また当プログラムで学ぶ専攻医には学習者であると同時に、教育者としての視点も養うことを薦めています。学んだことや考えを伝える力を養うことは自身の学びを確実なものとし、生涯学習のコアとなることでしょう

そうした日々の診療の中で、形成外科とは「何をする科」であるか、よりも「何ができる科」であるかが試されていることに視点が向いていきます。

プログラム終了時には、さまざまな症例を経験するなかで培われた「足腰」の強さには、自信が持てることでしょう。指導医といえども時に困難な症例に対しては学習者となります。ともに切磋琢磨し合う環境に身を置いてみませんか。



プログラム責任者

西関 修

## 形成外科のジェネラリストを目指した研修を！！

林 櫻

Sakura Hayashi

私が形成外科に興味を持ったのは学生の頃です。一言に形成外科と言っても診療で扱う疾患・分野は非常に多岐に渡りますが、当時はなんとなくわかつもりでいました。そんな時、当院の形成外科で実習をさせて頂く機会があり、扱う疾患・病態の幅広さを初めて目の当たりにして驚きました。決められた答えのない手術であっても挑戦する先生方の姿勢に感銘を受け、私も「形成外科の様々な分野の診療を学びたい」という想いから、出身地を離れて沖縄県の当院で研修をすることに決めました。

当院は成人と子ども病院が併設された3次救急病院であり、小児から高齢者まで先天奇形など小児形成はもちろんのこと、成人の感染症や外傷など非常に様々な症例を診ることができます。また、連携施設での研修では当院では診ることのない症例も経験できます。上級医の先生方はとても温かく指導熱心で、手技や診療についてフィードバックを受けられる点も大きな魅力です。忙しい時期もありますが、自分らしく後期研修に専念し、成長できる環境が整っていると思います。

形成外科専攻を考えている方、幅広い分野の症例を経験したい方は是非当院で研修してみませんか？



## プログラム概要

形成外科では初期研修終了後、4年間の専門研修が必要です。サブスペシャリティへの道も広く開かれています。地域完結型医療が求められる沖縄では、常にジェネラリストとスペシャリストとしての視点の両立が求められます。

形成外科の対象とする体の部位、患者さんの年齢は多岐にわたり、他科とのコラボレーションの機会も多くあることから、このマイルドは研修のコアとなります。幅広いジェネラリストとしての研修は「熟達した形成外科」となるための「足腰」となり、将来のサブスペシャリティへの基礎固めとしても重要です。

こども病院機能を併設した総合病院である当院は沖縄県の基幹病院であり、形成外科におけるほぼ全ての分野をまんべんなく経験できる機会があります。全研修期間を通じてGeneral Plastic Surgeonを目指した「広く、深い」学びを提供します。県立病院群を基本とした連携施設もそれぞれの地域での中核病院であり、プログラムスケジュールのようなアレンジを行うことで、より一層充実した研修が可能となります。

## 形成外科／カリキュラム(例)

### ●南部医療センター・こども医療センタースタート・重点コース

	プランⅠ	プランⅡ	プランⅢ	プランⅣ	プランⅤ
後期研修1年目	南部医療センター・こども医療センター				
後期研修2年目	南部医療センター・こども医療センター		中部病院・地域医療(※1)		
後期研修3年目	南部医療センター・こども医療センター	中部病院・地域医療(※1)	南部医療センター・こども医療センター	連携施設(※2)	南部医療センター・こども医療センター
後期研修4年目	中部病院	南部医療センター・こども医療センター			連携施設(※2)

### ●中部病院スタートコース(例)

	プランⅠ	プランⅡ	プランⅢ
後期研修1年目	中部病院		
後期研修2年目	中部病院		中部病院・地域医療(※1)
後期研修3年目	中部病院	南部医療センター・こども医療センター	連携施設(※2)
後期研修4年目	中部病院・地域医療(※1) 南部医療センター・こども医療センター	中部病院・地域医療(※1) 連携施設(※2)	連携施設(※2) 南部医療センター・こども医療センター

※1 地域研修のため宮古、八重山、北部、中部の各県立病院で基幹病院研修期間または中部病院研修期間中に3か月間のローテーションが組み込まれます。

形成外科KCでの美容外科、形成外科小手術症例の研修については、1～6か月間の短期研修を研修1～4年次にいずれかの時期に組み込むことが可能です。

※3 連携施設における研修期間は、年単位ではなく短期研修の組み合わせも可能です。

## 連携施設一覧表(※2)

- ・ 沖縄県立中部病院
- ・ (医) ころも満足会形成外科 KC
- ・ 鳥取大学医学部附属病院
- ・ 琉球大学病院
- ・ 九州大学病院
- ・ 名古屋大学医学部附属病院
- ・ 九州がんセンター
- ・ 富山大学附属病院
- ・ 名古屋市立大学病院

## (※) 地域医療研修病院

- ・ 沖縄県立宮古病院
- ・ 沖縄県立八重山病院
- ・ 沖縄県立北部病院



## ● 専門研修 プログラム診療科

01. 内科
02. 外科
03. 救急科
04. 小児科
05. 総合診療科
06. 形成外科

## ● 指定医療機関

- |                              |                       |
|------------------------------|-----------------------|
| 01. 保険医療機関                   | 11. へき地医療拠点病院         |
| 02. 更生医療指定医療機関               | 12. 臨床研修指定病院          |
| 03. 労災指定病院                   | 13. 被爆者一般疾病医療機関       |
| 04. 生保、児童、身体障害者福祉等<br>各法指定病院 | 14. 救命救急センター          |
| 05. 結核予防法指定病院                | 15. 特定疾患治療研究事業委託医療機関  |
| 06. 原爆医療指定病院                 | 16. 難病指定医療機関          |
| 07. 看護教育実習指定病院               | 17. 指定小児慢性特定疾病医療機関    |
| 08. エイズ医療拠点病院                | 18. 小児救命救急センター        |
| 09. 災害拠点病院                   | 19. 九州・沖縄ブロック小児がん連携病院 |
| 10. 第一種・第二種感染症指定医療機関         |                       |

## ● 認定医療機関

01. 日本医療機能評価機構認定病院 3rd G.Ver3.0
02. 総合周産期母子医療センター
03. 地域医療支援病院

## ● 学会認定施設

- |                                     |   |
|-------------------------------------|---|
| 01. 日本内科学会認定教育関連病院                  | 36. 日本医学放射線学会放射線科専門医研修施設                              |
| 02. 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設             | 37. 日本インターベンショナルラジオロジー学会専門医研修施設                       |
| 03. 日本肝臓学会認定施設                      | 38. 関連10学会構成 胸部ステントグラフト実施施設                           |
| 04. 日本消化器内視鏡学会認定指導施設                | 39. 関連10学会構成 腹部ステントグラフト実施施設                           |
| 05. 日本呼吸器学会認定施設                     | 40. 浅大腿動脈ステントグラフト実施施設                                 |
| 06. 日本内分泌学会認定教育施設                   | 41. 日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育病院                              |
| 07. 日本小児科学会認定小児科専門医研修施設             | 42. 日本救急医学会救急科専門医指定施設                                 |
| 08. 日本小児科学会認定小児科専門医研修支援施設           | 43. 日本高血圧学会専門医認定施設                                    |
| 09. 日本小児循環器学会小児循環器専門医研修施設           | 44. 日本がん治療認定医機構認定研修施設                                 |
| 10. 日本小児外科学会専門医認定施設                 | 45. 日本血液学会認定血液研修施設                                    |
| 11. 日本小児神経学会専門医研修施設                 | 46. 日本脈管学会認定研修関連施設                                    |
| 12. 日本産科婦人科学会専攻医指導施設                | 47. 日本歯科口腔外科学会認定医制度による研修施設                            |
| 13. 日本産婦人科学会専門研修連携施設                | 48. 日本静脈経腸栄養学会NST実地修練認定教育施設                           |
| 14. 日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設              | 49. 日本静脈経腸栄養学会NST稼働施設                                 |
| 15. 日本周産期・新生児医学会周産期専門医(新生児)暫定認定施設   | 50. 日本集中治療医学会専門研修施設 集中治療室(ICU)                        |
| 16. 日本周産期・新生児医学会周産期専門医(母体・胎児)暫定認定施設 | 51. 日本集中治療医学会専門研修施設 小児集中治療室(PICU)                     |
| 17. 日本腎臓学会認定専門医研修施設                 | 52. 日本小児感染症学会認定専門医制度研修施設                              |
| 18. 日本神経学会専門医制度教育施設                 | 53. 日本脳神経血管内治療学会研修施設                                  |
| 19. 日本精神神経学会精神科専門医研修施設              | 54. 日本感染症学会研修施設                                       |
| 20. 日本総合病院精神医学会一般病院連携精神医学専門医研修施設    | 55. 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設                            |
| 21. 日本総合病院精神医学会一般病院連携精神医学専門医特定研修施設  | 56. 日本成人先天性心疾患学会成人先天性心疾患専門医総合修練施設                     |
| 22. 日本外科学会外科専門医制度修練施設               | 57. 日本心血管インターベンション治療学会認定合同教育委員会認定<br>経皮的動脈管閉鎖術施行施設    |
| 23. 三学会構成心臓血管外科専門医認定機構基幹施設          | 58. 日本心血管インターベンション治療学会認定合同教育委員会認定<br>経皮的心房中隔欠損閉鎖術施行施設 |
| 24. 日本心血管インターベンション治療学会研修施設          | 59. 日本脳卒中学会認定一次脳卒中センター                                |
| 25. 日本眼科学会専門医制度研修施設                 | 60. 日本心臓血管麻酔科専門医認定施設                                  |
| 26. 日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設                | 61. 地域包括医療ケア認定施設                                      |
| 27. 日本整形外科学会専門医制度認定研修施設             | 62. 日本顎変形症学会研修施設                                      |
| 28. 日本形成外科学会認定施設                    | 63. 下肢静脈瘤に対する血管内治療実施基準による実施施設                         |
| 29. 沖縄県立病院群美ら島形成外科研修プログラム基幹施設       | 64. 日本手外科学会基幹研修施設                                     |
| 30. 日本麻酔科学会麻酔科認定病院                  | 65. 日本泌尿器科専門医教育施設                                     |
| 31. 日本臨床細胞学会認定教育研修施設                | 66. 経力テーテルの大動脈弁置換術実施施設                                |
| 32. 日本臨床細胞学会認定施設                    | 67. 日本外傷学会専門医研修施設                                     |
| 33. 日本臨床神経生理学会認定施設                  | 68. IMPELLA補助循環用ポンプカテーテル実施施設                          |
| 34. 日本病理学会病理専門医研修登録施設               |   |
| 35. 認定輸血検査技師制度協議会認定指定施設             |   |

令和6年4月1日現在

## 当院の概要

名称／沖縄県立南部医療センター・  
こども医療センター  
所在地／〒901-1193 沖縄県南風原町字  
新川118番地1  
開設年月日／平成18年4月1日  
病院長／重盛 康司  
建築面積／12,436㎡  
病床数／444床  
(一般433床・精神5床・感染6床)  
職員数／1,351人(診療所を除く)  
医師210人/看護部747人/その他394人  
附属診療所／(稼働数)8(8)

## 当院の診療科目

内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、神経内科、  
外科、呼吸器外科、消化器外科、気管食道外科、心臓血管  
外科、脳神経外科、小児外科、整形外科、形成外科、精神  
科、リウマチ膠原病科、小児科、皮膚科、泌尿器科、産科、  
婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線  
科、病理診断科、救急科、歯科口腔外科、麻酔科、腎臓内  
科、血液・腫瘍内科、感染症内科、乳腺外科、小児循環器  
内科、小児心臓血管外科、小児腎臓内科、小児神経内科、  
小児血液・腫瘍内科、小児内分泌・代謝内科、小児脳神経  
外科、小児整形外科、小児形成外科、小児精神科、小児泌  
尿器科、小児眼科、小児耳鼻咽喉科、新生児内科、小児放  
射線科、小児麻酔科、総合診療科

### 専攻医募集要項

- 選考方法：書類審査及び面接
- 提出書類：履歴書(指定様式有)、  
医師免許証(写し)

### 見学の申込み先

#### 沖縄県立南部医療センター・ こども医療センター 卒後臨床研修センター

メールアドレス  
nanbu\_pgmecc@hosp.pref.okinawa.jp

(見学の2週間前までにメールにてお申込みください。)

\*見学は随時受け付けております。  
詳細はホームページをご参照ください。

- 身分：会計年度任用職員
- 給与：《会計年度任用専門研修医師》  
(3年次)436,000円 (4年次)451,000円

※上記金額には、研修医業務手当(約72,000円)及び地域手当  
(約46,000円)を含みます。

《会計年度任用医師》(5年次)741,000円 (6年次)756,000円

※上記金額には、初任給調整手当(346,000円)及び地域手当  
(約50,000円)を含みます。

※経歴等により、変動の可能性有り。

- 時間外勤務手当  
【見込み額】当直1回につき 約33,000円～約113,000円  
※勤務体制により異なる。

- その他手当  
・期末手当、勤勉手当(6月期、12月期)  
・通勤手当(片道2km以上)  
・休日勤務手当  
・夜間勤務手当・宿日直手当・退職手当  
※要件該当時のみ支給

- 休暇  
有給休暇：年間10日(1年目)～14日(4年目)  
夏季休暇：3日間

- 社会保険：地共済(短期)、厚生年金保険、  
労働者災害補償保険、  
雇用保険(退職手当の支給要件に該当するに  
至った場合に喪失)





## アクセス



- 那覇空港駅
  - 🚆 モノレール(ゆいレール) / 27分  
…360円
- 首里駅
  - 🚶 徒歩 / 1分
- 首里駅前バス停
  - 1番 首里牧志線(那覇バス)
  - 14番 牧志開南循環線(那覇バス)
- 🚌 バス / 所要時間は、道路事情により異なります。  
…260円
- 沖縄県立南部医療センター  
・こども医療センター

## お問い合わせ

沖縄県立南部医療センター・こども医療センター内  
卒後臨床研修センター

TEL:098-888-0123 FAX:098-888-6400

〒901-1193 沖縄県南風原町字新川118-1

mail:nanbu\_pgmecc@hosp.pref.okinawa.jp



- 申込み先  
メールアドレス  
QRコード



- 研修医募集  
ホームページの  
QRコード

